

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 羽幌地域生物多様性保全協議会

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 【羽幌町の人口】現在：6,524人(2022年)、将来：5,341人(2030年)、3,646人(2045年)（羽幌町/日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)）
- 【留萌管内の人口】現在：47,912人(2015年)、将来：33,215人(2030年)、21,173人(2045年)（日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)）
- 羽幌町の環境を守る基本計画(2017年)：
 - 未来の子もたちに引き継ぐことのできる「豊かで質の高い環境(=羽幌町のめざす環境)」の確保のために、住民・事業者、観光客、町が連携して各々の役割を果たす。シーバードフレンドリー(SBF)事業は、本計画で位置付けられている。

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

【SBFの取り組み(事業)の方向性】

1. SBF認証制度を活用した地域事業者への支援
2. 留萌地域で連携した海鳥・渡り鳥を通じて行う生物多様性等の環境教育の展開
3. SBF認証制度を核とした関係人口の構築

【具体的に取り組んでいくこと（担い手）】

体制づくり

- ・認証を行う団体と地域振興プラットフォームを分離し、体制や役割を整備する（SBF推進協議会、事業者等）

事業者支援

- ・地域の環境に配慮した事業者が活動を継続できる・それに続く事業者が挑戦できる制度の設計と支援メニューの開発（SBF推進協議会、生物多様性に配慮した地域の先駆的な事業者、漁協、農協）

環境教育

- ・羽幌高校と連携した環境・地域学習の推進（SBF推進協議会、羽幌高校、事業者）

関係人口構築

- ・SBFの取り組みと連動した資金調達方法（GCF、サポーター登録）の確立（SBF推進協議会、町の地域振興課）
- ・応援人口への返礼メニュー(=ツアーやグッズなど)の開発（SBF推進協議会、観光協会、事業者、観光連盟）
- ・ポータルサイトやSNS等の情報発信強化（SBF推進協議会、事業者、振興局）
- ・環境保全のイベントの共催や地域活動への参加（SBF推進協議会、羽幌高校、地域づくり団体、漁協や振興局）

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

○「環境保全」が「地域振興」になる地域へ

→ 留萌地域が「海鳥を通して、生物多様性や脱炭素などの環境保全をリードする地域」としてブランディングされる。

・地域内外の多くの人々が多様なかたちで環境保全に参加する。【環境教育】【関係人口】

地域の人々の日常生活や様々な活動、文化のなかに環境保全が組み込まれ、環境にやさしい取り組みに“楽しみながら”や“意識せずとも”、人々が参加している。

海鳥が留萌地域のシンボルとして認識され、地域の人々が日々の生活の中で海鳥を見守っている。

地域の人々が、自然環境の保全や地域振興のために「何ができるか」を知りたいとき、SBFが窓口となって教えてもらえる。

・環境にやさしい事業が持続的に発展していく。【事業者支援】【関係人口】

事業者が環境保全に取り組むことで、抱えている課題の解決や新しいやりがいの創出ができ、さらなる挑戦ができる。

環境にやさしい持続的な事業の商品を選択的に購入する消費者（=グリーンコンシューマー）が地域内外にたくさんおり、SBF認証の商品・サービスが評価されている。

・地域内外の人々の交流が活発に行われ、地域の活性化につながる化学反応がどんどん起こっていく。【事業者支援】【環境教育】【関係人口】

例えば地域の人々が活躍できる場を見出したり、人々がより留萌地域の魅力を実感したり、新しいビジネスが創出される。

→ ・環境保全の取り組みが持続的に推進され、地域に生息する海鳥やその他の生物が豊かにくらしている。【事業者支援】【環境教育】【関係人口】

現状把握し、データに基づいて事業が設計・実施されるように、必要な情報収集・モニタリングを行っている。

例えば海鳥の生息状況から保全事業やゾーニング方法の整備を行う。

※SBF認証は、地域内外の多くの人々が自然環境保全に参加するための核であり、一つの手段として活用される

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	SBF認証の状況	認証取得候補の事業者数	4	7		件
	環境活動の取組状況	イベント開催(共催や参加も含め)数	1	3		回
経済	財源を確保する	GCFで確保できる予算	200	250		万円
		CFの寄付者数	107	130		人
	事業者の取組状況	SBF認証の商品候補数	-	5		商品
社会	関係人口・応援人口	管内のSBFの応援・賛同者数	25	50		件
		サポーター登録の候補数	0	20		件
		意見交換会への参加団体数	20	30		団体
		SBFの公式HPの訪問者数	-	100		人
		SBFのSNSのフォロワー数	50	100		人
	環境教育の状況	環境学習を行うクラス数	2	4		クラス

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	地域の取組状況	SBF認証を取得している事業者数	-	-	2030	50	件
		【漁業】海鳥混獲防止事業に参加する人数	3	-	2030	15	人
		【エネルギー】省エネに取り組む戸数	-	-	2050	200	戸
	環境活動の状況	環境関連のイベント(共催や参加も含め)回数	-	-	2030	300	回/年
		海鳥のモニタリング者数	-	-	2030	25	人
経済	財源	寄付で集まる活動資金	200	250	2030	500	万円
	事業者の取組	SBF認証商品数	-	-	2030	60	商品
		SBF商品やサービスの開発数	-	-	2030	10	個
		ツアー・イベントのプログラム実施数	-	-	2030	30	回/年
	人材・雇用	SBFをきっかけに来る移住者数	-	-	2030	20	人
		SBFの専従職員	-	-	2030	1	人
社会	関係人口・応援人口	プラットフォーム参加団体数	20	30	2030	100	団体
		サポーター登録数	-	-	2030	300	件
		援農・援漁のボランティア等の人数	-	-	2030	160	人
	地域の取組状況	SBF商品を使う学校・飲食店	0	0	2030	20	件
	環境教育の状況	海鳥を通して環境教育を行う高校	1	1	2030	6	校

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

SBF認証は、地域内外の多くの人々が自然環境保全に参加するためのプロセスの一つあり、事業の核であるが、現行の制度には現行の認証制度には、認証対象が事業者のため消費行動につながりに、また対象エリアが町内であるため社会的・経済的なインパクトが小さいといった課題がある。そのため、そういった課題を制度のリニューアルによって解決することで、地域内外の人々が自然環境保全に参加する間口を広げていく。短期目標は、リニューアルに向けた2022年度の環境整備で実現したい目標である。

制度のリニューアル後には、SBF認証制度を核とした3つの事業（【事業者支援】【環境教育】【関係人口の構築】）を進め、留萌地域における『環境保全』と『地域振興』の両立を目指していく。リニューアルによって機能強化された認証制度を活用し、長期的には環境保全の取り組みを地域の人々の生活やイベント、ビジネスに浸透させ、人も海鳥も豊かにくらせる地域にしていく。長期目標は、留萌地域の自然環境保全への参加メニューとして実現させたい目標である。

留萌地域の海鳥を取り巻く自然環境の保全に地域内外の多くの人々が参加することで地域が活性化するために、短期的には参加間口の整備、長期的には多くの人々が多様な間口から環境保全に取り組めることを目指していく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください